**第６回登別市市民自治推進委員会　産業躍動部会議事録**

（敬称略）

◆ 開催日時：平成２８年１０月５日（水）　１８時３０分～

◆ 開催場所：アーニス　２階　会議室

◆ 出席部会員：副部会長　川田　弘教

　　　　 　　部会員　 吉田　武史

　　　　　　　　　　　　 森元　俊明（協働推進庁内委員会）

【観光経済部観光振興部ループ総括主幹】

　　　　　　　　　　　　 大越　智輝【観光経済部商工労政グループ主査】

◆ 欠席部会員：部会長　　髙橋　弘康

　　　　　　　 部会員　　安達　陽子

　　　　　　　　　　　　 小川　賢

　　　　　　　　　　　 木村　義恭

　　　　　　　　　　　　 近井　一夫

　　　　　　　　　　　　 志水　孝暢（協働推進庁内委員会部会長）

　　　　　　　　　　　　　　　　　 【観光経済部次長】

　　　　　　　　　　　　 井上　昭人（協働推進庁内委員会部副会長）

　　　　　　　　　　　　　　　　　 【観光経済部商工労政グループ総括主幹】

◆ 事　務　局：　　　　　松田　毅　【市民生活部次長】

笠井　康之【市民生活部市民協働グループ総括主幹】

　　　　　　　 　　　　　早坂　晃正【市民生活部市民協働グループ担当員】

◆ 議 題：「健康」に関する取り組みについて

**≪事務局≫**

前回、産業躍動部会としては温泉については外せないという話がありまして、温泉に長期滞在してもらうことにより健康に繋げていきましょうという話になっておりました。

　前回の話の中では、長期滞在するためには全市観光で市内の魅力的なスポットを回るルートや、観光的な要素が必要ではないか、湯治というシステムを使えないだろうかという話もありました。

　それと、安い料金で宿泊できる施設もあれば市民の利用も増えるのではないかという話もありました。

温泉の効能について具体的に調べて、プラスαで登別温泉の空気がとても澄んでいることや、カルルス温泉はマイナスイオンが出ているといった話もありました。

また、そういったことと温泉の効能などを合わせて、何かできれば良いのではという話もありました。

　それと、地元で水揚げされたタラなどをさばいて、タラコを作るといった料理教室など、地元食材のＰＲや無添加といったところで健康にも繋げることができるのではないだろうかという話もありました。

　今日の部会は２人の出席しかありませんが、開催させていただきましたのは、市の予算の関係で、ある程度固める必要があり、対応が必要なものについては決めていただければと思っています。

　前回、空気の関係で、観光協会で調べている資料があるか調べてきてくださいという話があったと思うのですが、なにかわかるものはありましたか。

**≪部会員≫**

　空気というのは、開発局なのですけれども、効能などは北大の先生などに書いてもらっている資料はないか頼んであるのですが、そのままになっています。

**≪事務局≫**

　それは登別温泉とかカルルス温泉とかも含めての話ですか。

**≪部会員≫**

　そうです。もう少々お待ちください。

**≪事務局≫**

　わかりました。

**≪部会員≫**

　空気については、開発局の佐藤建設部長が、前に道の駅の件で講演してくれたことがあり、そのときの資料は私が探せばあるのですけれど。

**≪事務局≫**

　それは、探せば出てきますか。

**≪部会員≫**

　探して持ってきますか。

**≪事務局≫**

　はい。お願いします。

長期滞在と湯治プラスαで繋げられれば良いと思います。

　市の観光ではそのような資料などはないですか。

**≪庁内委員≫**

　温泉の効能関係の部分については、半年に１回は保健所などが検査にきます。そのような部分での資料はありますが、数字的なものなので、それがどう身体に良いのか悪いのかというのは判断できないですね。

**≪部会員≫**

　どのような効果があるのか知りたいですね。それはやはり大学の先生など聞かないとわからないですね。

**≪事務局≫**

　そういった効果などをＰＲして、どのように入浴すると効果的なのか話ができれば良いのかなと思っていました。

**≪部会員≫**

　その効能の数値はどこに持って行けば一番わかりますか。保健所ですか。工大ですか。

**≪庁内委員≫**

　工大でもわかると思います。

**≪部会員≫**

　保健所はわからないですか。

**≪庁内委員≫**

実質ほかの温泉と比べてどうなのかという比較はできないかなと思います。

**≪部会員≫**

　わかりました。これをもし工大の先生にお話しできる機会があれば、市役所や観光協会の方も一緒に行ってもらうことはできますか。

**≪事務局≫**

　構いません。

**≪部会員≫**

この温泉は飲めることができて、こういった効果があると、入浴であればこういう効果があるなどわかるものがあれば良いですね。

**≪事務局≫**

　基本的な効能などは、先程話がありました温泉の成分表に全部書いてあります。これは飲んでもいいですよ、飲んだらだめですよということも書いてあります。

　もし大学の先生ということであれば、いろいろな成分の濃さや薄さといった、一つひとつの部分を見てもらうとなると、温泉関係の専門家ではなければ、わからないかもしれません。

**≪部会員≫**

　そういうことは、ホテルに行ったら書いてありますね。

**≪事務局≫**

　登別温泉株式会社で、全井戸の成分が記されたものがあり、それには全部書いてあります。

**≪庁内委員≫**

　それは工大の先生に聞いてみてはどうでしょうか。

今、いろいろな部分で市が持っているデータがあって、地熱を調べている関係で温泉成分も調べていますので、いろいろな所へ行って、現在の状況などもかなり分析してくれていると思います。まず先生に、登別の温泉はどうなのか聞いてみるのも良いのではと思います。それで効能の部分はある程度クリアできるかと思います。できない部分については、また本格的に行っていくと良いかなと思います。

**≪部会員≫**

　目の湯というのがありますよね。あそこは、昔火薬を取っていて、そこのお湯で目を洗っていたら治ったということで、目の湯になったという伝説はあるのですが、実際にそのようなそういう効能があるのかということについても知りたいのです。

**≪庁内委員≫**

　それは人によって効果は違うと思うので、目を洗ったときによくなったと言うのは、たまたまその人にあっていたのかなと思います。

　ここの温泉は糖尿病に効くというような話があって、どうして温泉に入ったら糖尿病に効くのか、とても疑問に思っていたので、そういうことを大学の先生に聞いてみたいですね。

**≪事務局≫**

　温泉のパンフレットでそういう具体的にわかるようなものが、調べたらあるみたいです。

　ホームページにアップしてあり、観光協会のパンフレットにもありました。その泉質のことをもう少し具体的にできればよいですね。

**≪事務局≫**

　これは一般的に配っていて、これを市民のほうに普及させるということはあり得ます。

**≪庁内委員≫**

　温泉の成分は結構毎年変わるのです。去年は温泉の匂いがあまりしていなかったのに、今年になると匂いが強いといったこともあります。去年までタオルを洗濯すれば匂いも取れたけれど、今年は洗濯してもまったく匂いが取れないなど、地殻変動の中で多少温泉成分が毎年変わるものだと私は思っています。

**≪事務局≫**

　硫黄泉が少しでも入っていたら、それはもう硫黄泉です。登別温泉ではほとんどが入っています。純粋なものは食塩泉と鉄泉と明ばん泉ではないかと思います。

**≪庁内委員≫**

　明ばん泉はさぎり湯だけですね。

**≪部会員≫**

　温泉がでるときに、その地層の成分を溶かしながら地下水が温まって出てきていると思うのですが、その溶け出たお湯が別の所を通って出てくると違った色や成分になるのではないかと思っています。

**≪部会員≫**

　緑ばん泉は浴槽の色が違いましたね。苔みたいに緑色でした。有名な３つくらいで勝負してはどうですか。食塩泉や硫黄泉だったらどこの温泉でも入れますよね。硫黄泉で勝負するのもいいかもしれませんね。

**≪事務局≫**

　食塩泉と硫黄泉が一番多いので、硫黄泉だけでも良いのですが、先程話にありました先生に聞けば登別温泉の特徴などもわかるのではないでしょうか。

**≪部会員≫**

　目新しいことも聞けるかもしれませんね。

　先生に聞いた話を、ホテルなどにフィードバックすることで喜ばれるのではと思います。

**≪事務局≫**

　そうですね。泉質の情報はホテル発信でなければ難しいのかもしれないですね。

**≪事務局≫**

　別府温泉が８種類ですか。

**≪庁内委員≫**

　８種類です。今９種類あるところが登別市を含めて３つあります。

**≪事務局≫**

泉質の部分は、硫黄泉などと比べて、何か特別なものはないかというアドバイスをもらって、あればホテルなどにフィードバックして、そこからＰＲをしてもらい、健康に繋げられればと思います。

**≪部会員≫**

　全市観光についてお話しますけれど、自分の町内で、ここを世界中の人に見てほしいというところをＰＲしてもらうように言ってあります。それもプロモーションビデオに盛り込んでいくことになっております。

**≪事務局≫**

　全市観光は観光協会と連合町内会が連携して、色々動いてもらっているので、ここの部会として、特にどうするといったことはないという気がしました。連合町内会に協力してもらい、良いところを洗い出してくださいと動いてもらっているところです。

**≪部会員≫**

　プロモーションビデオを、例えば東京のビックサイトや、新幹線のＰＲに持っていったとき、「それにうちが入っていないのではないか」など、あとから言われることがお互い嫌な思いをするので、「ここは車で観光に行ける場所だ」など、なるべく皆が行って満足できるような場所やモノなど、登別の深いところを町内会でも周知して、市民におもてなししていただくようにやっていこうとお願いしています。

**≪事務局≫**

　市のほうで全市観光の関わりが何かありますか。

**≪庁内委員≫**

　全市観光のことは４月から市と観光協会で、動いています。もうＪＴＢの商品開発部のほうには、３回来てもらっています。鉱山や札内、温泉地区の商品化できる商品開発の部分に今すでに動いています。

**≪部会員≫**

　今、登別・室蘭は、海があることを知られていないのです。それをＰＲするために私はお店を出して、タコやタラコ、カニなど一生懸命あちこちでＰＲしてきましたが、全然知られてないです。苫小牧くらいから知らない人は増えていくのです。千歳でやったときで、レラなどで地元の北海道民の人たちに聞けば、だいたい８割以上の人が知らない。札幌の「オータムフェスタ」や「きたキッチン」などの催事で試食を配りながら「登別産ですよ」と言ってもだいたいの人が知らないです。

**≪事務局≫**

　漁港があることを知らない人は多いと感じますね。

**≪部会員≫**

　的を絞ってでも、ＰＲしていかないと。

今回新幹線のＰＲで北関東に行ったときも、20代の夫婦くらいは、だいたい登別を知りません。湯鬼人の格好をして歩いていても、なまはげだと思っていて、後ろに登別温泉と書いてあるのに、登別って秋田にあったんだと言われました。それくらい若い人は、登別に来たことがないのだと感じました。私たちより上の人たちは修学旅行などで行ったという人が多いのではと思います。もっと年配になると、新婚旅行で行ったという人たちも少なくないと思います。

**≪事務局≫**

　名前は知っていても、どこにあるのかがわからないのですか。

**≪部会員≫**

　名前も知らないです。去年、仙台で若い人たちは登別温泉を認知していないと思い、それを見越した上で、地方創生の事業の中で招へい事業を行いましたが、東北の各エージェントの、入社３年ないし４年の若い人を招へいしました。来たエージェントの多くが登別に来るのは初めてだという人でした。登別には海や山、温泉があるのですねと言っていました。

**≪部会員≫**

　私は催事場に行くときは登別の文字の横に大きい北海道のマークと、登別のパンフレット全部、どこを開いても港が出てくるように、地図を書いています。

**≪事務局≫**

　登別を知ってもらえていたのかと思ましたが、そんなことはないのですね。

**≪庁内委員≫**

　新聞などでアンケートを取っても、アンケートを書いてくれる年代は決まっていて、だいたい４０代以上で、そうなると、登別温泉が認知されているかたちになってしまいますね。

　温泉のＰＲ方法も変えていかないとだめですね。

**≪事務局≫**

　温泉は、できれば市民も入ってくれるようになって、来やすいような感じができればいいなという話に以前もなりました。湯治でも気軽にできればと。

**≪事務局≫**

　それと、地場産品の関係ですが、以前話があったかと思いますが、その辺も、取り組みやすいのかなと思っていて、今回出席はされていないのですけれど、消費者協会も栄養関係や健康の関係もあるので、地場食材の関係と消費者協会の料理とかも合わせてやることも可能ではと思うのですが、その辺りはどうでしょうか。タラでもいいですし、魚介もありますし、農協の委員さんがいるので牛乳などを使って消費者協会とコラボして、健康料理にもっていけるのではという気はするのですが。

**≪部会員≫**

　私、１つ前から思っていることがありまして、登別で取れる海の物で、マダラはタコより通年取れるそうです。それと水揚げすると結構な量のＢ級品が出るそうです。腹が裂けたり胴体が裂けたり。それは市場にも出せないし捨てるしかないらしいのです。それを何とか使ってほしいと何年も前から漁師に言われていました。マダラはとても良質なたんぱく質なのです。

**≪事務局≫**

　地場産品が、市民に使ってもらうというところをできればやっていきたいのですね。

**≪事務局≫**

　そのものを使用した料理や、こうしたらおいしいなどを、市民に知ってもらい、地場産品を普及させていく事業が方向としてありますね。

**≪庁内委員≫**

　通年取れるのだけれど、それだけ確保できるかと言ったら、厳しいと思います。

取れる量というのは、多くはないので、許容量を市民に出せるかといったら、厳しいかなと私は思います

**≪部会員≫**

　魚だけでなく、登別牛や登別豚なども、生産量が少ないと物が良くても広がっていかないですよね。

**≪庁内委員≫**

　広がらないから生産量も多くできないというところもありますね。

**≪庁内委員≫**

　私は、食と健康と言う部分でいけば、漁師飯は食材を無駄にしないという感じで、漁業組合の婦人部が色々な活動をしています。婦人部の活動として寄付をしたり、木を植えたり、色々なことを行っているので、その婦人部の人たちが、例えば鷲別や温泉など、市内でそういった料理教室のようなことを率先してやってくれないかなと思っています。

**≪部会員≫**

　観光客は漁師飯に飛びつきますね。浜のお母さんの味付けで、お湯で煮てこれを入れるだけといったタレを作れば、今の主婦には売れるかもしれませんね。

**≪部会員≫**

　もう１つ良いですか。３年連続初回から行っているのですけれど、えりも漁業で昔からのお母さんの味を次の世代に伝授しようという事業で、飯寿司づくりをやっていいました。１回目、２回目、３回目まで行って、３回目からは抽選になったのですが、４回目は、日本中から来るようになり辞退しました。作り方はわかったのですけれど、それくらい大人気で、最初は小さい生活館で、次は体育館で、次は漁業組合の施設全部を使って開催していました。

　そういうものが登別には何かないですか。お母さんのなど伝授していけるものがあれば観光の人も地元の人も食いつくと思います。

**≪事務局≫**

　産業躍動部会の取り組みとして、今言った料理の関係というかそこら辺のところと、温泉の成分の関係は商工労政グループ経由で室工大の先生に協力してもらい、登別の特徴のあるものについて、見出していければなということでよろしいですか。

**≪副部会長≫**

　良いと思います。

**≪事務局≫**

　市の予算関係は賄い材料のほうを要求したいと思います。

**≪副部会長≫**

　それでは、次回10月31日で調整したいと思います。

　お疲れ様でした。

【次回会議について】

・室蘭工業大学大学院工学研究科助教　河内氏に、温泉の効能や泉質などについて伺う。

【次回日程】

・１０月３１日（月）　１８：３０～　アーニス２階　会議室